

理事会 議事録 2022年9月22日 19:00～(会名略称・敬称略)

第35期(2022年度)第6回理事会の結果について

とき:2022年8月25日(木) ところ:労山全国連盟事務所

欠席 石川 友好(山行)、野々脇 千沙(仕事)、武笠 真次(不明) 吉川 幸一(連盟)

1. 討議事項

1 全国登山研究集会について

8月20日から参加申し込み受付開始。現在10名ほどの申込。首都圏が多いが、できる限り地方からも参加者を増やし、対面での議論を深めたい。

理事は各自最低1本のレポートを提出し、分科会の議論を深める。理事の交通費と参加費は全国連盟負担なので、参加できない場合は早めに実行委員会まで連絡する。

2 来期の機関誌・紙、発行について

・毎月発行の機関紙について、名称を検討する。事務局中心の全国連盟からの情報提供が主な役割。

・季刊で発行の「登山時報」は読み物中心で内容を深める。現在の人気連載を継続し、全国理事会三役からの「ふみあと」も継続したい。地方連盟からの情報を得るために10地方協議会から全国理事または広域の編集委員を検討したい。

2. 承認事項 全て承認

①四国地方協議会安全対策講習会 申請金額 100,000円

②講師派遣制度 四国地方協議会 7月17日「遭難対策講習会」

豊田ふみよ准教授、大和田技術教育部員、川嶋遭対部員が講演。

宮城県連 11月12日と埼玉県連 11月27日 「山筋ゴーゴー体操講習会」 石田良恵先生が講師参加。

(2) その他

・兵庫県連「登山の筋力測定と講習」への補助 来月の遭対部で検討し理事会に諮る。

3. 報告事項

☆遭難対策部から沢登りの事故が続いている。7月に続いて8月も死亡事故が発生。今年7名の会員が亡くなった。訓練中の事故や確保ミスによる重大事故も発生している。ロープ操作の人為的な失敗による事故はゼロにしたい。全国遭難対策担当者会議の経費オーバーは今後の会議運営や予算設定の課題とする。

☆国際部からアジア山岳連盟の総会を11月下旬にインドで開催する案が届いた。詳細が届いてから参加を検討する。年会費300ドルは早急に支払う。

☆基金運営委員会から基金寄付金口数の4段階簡素化は決定事項ではなく今まで通りの推奨案とする。(地府連盟の意見を聞いて決めてほしい。大阪常任の意見)

☆第25回全国自然保護講座の精算書は会計報告として明確にする。また参加者名簿も次回の資料とする。

☆山筋ゴーゴー体操推進委員会から、サポーター養成講座の1日開催について案内を作成したので地方連盟に告知する。

☆第23回全国ハイキング交流集会について、全国理事の参加は前回理事会で確認した通り役員行動費を利用する。

☆第6回山の日全国大会は山小屋、登山道、クアオルトウォーキングなど全国登山研究集会の分科会に関する情報を得ることができた。

次回 理事会 9月29日(木)

事務局関連…リモート会議でのスピーカー不調(買い替える)

組織部

<組織担当者会議>

日時:2022年9月8日(木)午後7時~9時前 会場:連盟事務所1F会議室12名、リモート参加者14名

内容:

1. 高齢者のための取り組み等を活発に取り組んでいる八尾山の会ときたろうHCの報告
2. 兵庫労山で活発に活動している会の報告(笹部兵庫労山組織委員長と蟹沢さんから西宮労山報告)
3. 参加の各会から報告 時間の関係でリモートの会に報告してもらった。

※会議後に懇親会を行いました。参加者:8名(兵庫労山2名含む)

報告:

・私のリモート設定の取り扱いが悪く、報告に集中できない状態になり、ご迷惑をおかけしました。

ホストの交代の方法要確認

・八尾山の会、きたろうHCの報告をしてもらいました。

兵庫労山に資料をお願いしていますので、詳細は報告書で報告します。

自然保護委員会

1. 憲章の実践 9月14日現在 沢村:sawadesu@ares.eonet.ne.jp までお願いします。

鳥獣・らいちょう目撃レポート 目撃日時、場所、天候と動物の様子をメール下さい。写真があれば最高です。

ただし、標高500m以上での目撃に限ります。 (): 去年

らいちょう 7件 (18件) 鳥獣 7件 (13件) 昆虫 0件 (1件)

9/3、ピトンの会の桑畑さんが新穂高温泉?双六山荘間、弓折乗越付近でらいちょう2羽を目撃。

環境省「いきものログ」に」登録 今期5件 その他は変化なし

2. 8日 自然保護委員会の報告

NHK番組 サイエンス ZERO ライチョウを腸内細菌で救いを視聴(理事会でも視聴した) ライチョウのフンより大発見

分析してみると、らいちょうが高山で住むための物質がたくさん 人工的に製造、エサに混ぜ与える

全国労山主催: 自然保護集会 11月12~13日 再生可能エネルギー100%は可能 和田武 Zoom参加可能 資料は事前配布の予定

女性委員会

子ども冒険学校への協力で公共の宿泊可能施設が年々少なくなっている、宿泊できる施設の情報を求めています。

北小松に京都の会の宿泊施設があるらしいとの情報を大見さんに連絡します。

10月16日(日)長距離縦走ダイトレの豚汁応援隊要員として参加予定。

11月12日~13日(土・日)京都府連担当 近畿ブロック交流山行、参加予定。

各会から登録された女性委員会への呼びかけ。労山ニュースへ掲載。

子どもの冒険学校

(1)秋のハイキング: 10月30日(日) 今のところ2家族申込み有りコース : 近鉄枚岡駅~なるかわ園地

募集要項: http://bokengakko.aikotoba.jp/2022boshu_hiking.pdf

(2)冬の冒険学校 : 2023年1月29日(日) 募集開始します。ご承認をコース : 比良 イン谷口周辺

募集要項: http://bokengakko.aikotoba.jp/2023boshu_fuyu.pdf

障登PT

手話で学ぶ登山入門講座

前に室内でレスキュー実技をやりましたが、物足りないので、以下の通り、室外で実技をします。

日時 10月15日(土) 9時半から15時まで

会場 奈良まほろば健康パーク(奈良県大和郡山市)

集合場所と時間 ファミリー公園前駅 9時

内容 トラバースのときの安全確保と緩斜面を懸垂下降で降りる方法ツエルト実習

持ち物 昼食、飲み物、ヘッドライト、防寒着、軍手(綿100%)か皮の手袋

ギア?60cmスリング+カラビナ2 1~2セット 安全環付カラビナ(HMS型) 1枚

120~150cmテープスリング 1本

参加対象者は室内でレスキュー講座を受講した皆さん

11月は、読図講習(座学・実技)を実施します。 ※案内ビラをOWAF-MLに配信する予定

教育遭難対策部

0. 報告事項

1) 事故5件 先月から変更無し。

2) 今月の活動、今後の予定、年間スケジュールの確認

1) 山の教室 2) 中級登山学校 ; 来年度の方針について議論開始した。

3) 救助隊

・8/28(日) 8/28(日) 自主訓練 報告 百丈岩 ルンゼ 救助隊員 5名

■10月大阪労山主催岩搬出訓練に向けての骨格作り。

■ルンゼ30メートル地点で足の負傷した要救助者発生

■バックタイアンカーの確認

・10月1(土)岩搬出訓練(事前訓練)

10月2(日)岩搬出訓練 午前8:30 集合場所:百丈やぐら前

・救助隊 搜索訓練 11月20日(日曜日) 千刈ダム駐車場広場 8:00~ 場所:

大岩ヶ岳周辺

4) 初雪と雪山縦走L学校 ; 討議事項参照

5) 岩登り体験教室

・定員は5名

・10月19日開校 座学 実技各2回 ・10/11~受付

6) 技術委員会 山の教室 制動確保 入門 9月4日

7) 初級登山学校

・受講生5名で、9月7日開校

- ・第1回目実技を9/10-11で実施。

途中懸垂箇所があり、1回目の実技としては、初回のハイキングレスキュー並みにトレーニングが必要なレベルであった。

- ・読図入門の講義と実技を実施。地図の整地、進む方向の決定方法などを学習した。

11月にはスキルアップ編を受講予定。道迷いしない読図技術を身につける。

8) 兵庫県連 登山の筋力測定と講習(60歳以上向け)

- ・大阪から5名(男3, 女2)参加

スタート時点の筋力と六甲頂上までの登山時間を計測(9月4日~9月10日)

10/1には 個人で家で出来るトレーニングメニューの指導を受ける予定。

今後半年かけて トレーニングの効果を確認していく

- ・大阪での事故防止の取り組みに活用したい。

1. 討議事項

1) 初雪と雪山縦走L学校

- ・初めての雪山教室の内容で、初級冬山としてスタートしてはどうか?

- ・募集人数は、人数を指定せず数人としては?

- ・しばらく空いているので、とりあえず今年は足がかりの年とする。

- ・12月に蓬萊峡でアイゼントレ 1月に比良、伊吹はどうか?

- ・ダイナランドまで行くのは ケースバイケースで考える。

・冬セミとの棲み分けをどうするか (2, 3回の雪山ハイキング経験要、目指すは冬山テント泊が計画できる)

- ・今月中に立ち上げ準備会を開催し、その内容を10月の理事会に諮る

- ・雪山縦走: 実施せず ; スタッフ研修として初級(夏)登山学校参画を呼びかける

2) 前鬼川事故報告書

- ・報告書での深掘りしたい点

会報告書とは別に 大阪労山としての報告書としての方向性

- ・現地視察を 9/23-24で行う。

教育遭難対策部での議論

- ・沢は水量で状況が変わる。

- ・工場での事故検証などを使って同じ事故を繰り返さないためにも 深掘りできないか?

・先週前鬼川に行ってきた部員から、引き返した地点・確保の方法・渡渉地点などへの疑問が呈された

- ・紀伊半島は午後は天気が悪くなることが多いので 午前中に抜けるように計画している。

- ・会運営の問題も。山行管理、計画書の判断ができているのか？
- ・山行メンバ間の経験の差やザイルの長さなどへの疑問もあった

常任理事会での議論では 今後の事故解析対策の方法を探るべきではという方向が出された

理事会では初級夏山の実施をめぐってほぼ全員発言で討議した

雑木佐藤…コロナで間ができたので実施するのはいい案だ

こもれび佐々木…冬山に行くメンバーはいないが登山教育についてはありがたいと思う。組織部の集会はあったが結局拡大できるのかできないのか

その分岐点をさぐる討議が必要。

福島日置…冬山には人員減もあって行けていない。その分連盟として教育は継続というのは正しいと思う

ALBA 木村…セミナーとの兼ね合いもあり運営側の負担の調整が必要

スキーHC 堀…1月中旬から5月までバックカントリースキーを継続している。人員が少ないので専門部会に派遣できていないのが心苦しい。

教育は安全を守る要なので続けてほしい

つりばし下窪…最近はやとして冬山実施してない。今年のセミナー生で意欲ある方がいるので春・雪でとぎれないようにしたい。セミナーや初級冬も

内容を具体化して目標も明確にして育てる必要がある。大阪は最近低迷している。だから継続する必要がある。サポートもほしいところ

泉州榎本…会は冬山合宿など実践している。セミナーに参加して会に還元するメンバーが増えてほしい

吹田蘆田…会として冬はできでない。個人山行で行っている。若い人が入ってきたので学校開催は助かる

溪游会井上…応答なし

ピトンの会菅野…初雪や雪山縦走などを統一して初級冬山ということですね。運営する人のやりやすい形でいいと思う

会員以外にも門戸を広げたらいいのでは。

高槻柴田…以前は行っていたが今は冬山ない。冬をめざす人がいないので会としての要望はない

安治川清水…応答なし

安治川入澤…運営側の体制とどの程度まで進められるのかという課題がある。今各会の意見を聞いて「今さら冬をやると言われても会としてやっていないし」という

感じではないか。安治川でも比良とか金剛山一泊などやりたい人もいない

理事長高橋…今さら冬山でもないだろうという後退的な今の意見には私はくみできません。各会からのこれまでの意見で今ある力で総合的な山の魅力を継続することの大切さも感じました

テンション坂地…ハイキングの会なので年齢も高いので冬山と言われると敷居が高い。次に繋げられるか難問。次につなげる取組は大事。数年はコロナでテント泊への抵抗がある。この状態には苦慮している

マウンテン土田…3人の会で高齢化。個人的にはまだ雪山に行きたい。可能な範囲でお手伝いしたい

ももんが城本…セミナーのスタッフをしている。冬セミへの参加希望者もいる。開催したいがコロナ禍で2年間あいたのでスタッフが少ない

来週検討会議をする

二十渉知念…初雪などたくさん受講した。継続してほしい。会を越えて冬山の催しを呼びかけるなどいいのでは。

E L F 平野…続けてほしい

テルル戸田…仕事で応答なし

淀屋橋濱崎…加入してすぐでは自分でトレーニングは難しいので連盟でも続けてほしい

志峰会中尾…会から入校する人はいない。セミナーの校長をしているが初級冬山とクロス部分がある。どこをめざすかが重要

スタッフ不足。冬セミは実施したい。初級冬山はそれ以上のことをしてほしい

きたろう高桑…コロナ以前は初級冬山と同様のことを会で実施していた。この2—3年でできていない。冬に行きたいメンバーが入会したときを考へても連盟の学校は実施してほしい

たつのこ山下…今年2月手話で学ぶ雪山講座を開催。参加者も多かった。ステップアップできる指導者がいないので困っている

こういう学校があれば参加して会員に伝えていきたい

大見…来月方針を決めたい。セミナーの結果も聞いて調整していきたい

山下…ダイトレの応募者は？

木村…現在115人です

(以上：文責高橋明代)